

「婦人科癌(卵巣癌／子宮体癌／子宮頸癌)脳転移に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)の治療成績に関する後ろ向き研究」に関する「お知らせ」と「お願い」

現在、当院脳神経外科において、「婦人科癌(卵巣癌／子宮体癌／子宮頸癌)脳転移に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)の治療成績に関する後ろ向き観察研究」を実施しております。

皆様のご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

【研究課題名】

婦人科癌(卵巣癌／子宮体癌／子宮頸癌)脳転移に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)の治療成績に関する後ろ向き観察研究

【研究の対象】

当院で婦人科癌(卵巣癌／子宮体癌／子宮頸癌)脳転移に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)を行った患者さん

【研究の意義・目的】

一般に原発癌からの脳転移の割合は約 15-40%とされています。転移性脳腫瘍の原発巣の割合では肺癌が約 50%で圧倒的に高い数字を示していますが、一方で婦人科癌(卵巣癌／子宮体癌／子宮頸癌)は 1-2%程度とされています。がん罹患率では卵巣癌および子宮体癌／頸癌いずれも近年は増加傾向を示しています。一方でがん死亡率において卵巣癌はほぼ横ばいですが子宮体癌／頸癌は減少傾向を示しています。以上より卵巣癌および子宮体癌／頸癌いずれにおいても致死率は減少傾向にあると言えます。婦人科癌は脳へ転移する割合は低いもののその生存患者数は近年の治療法の進歩により年々増加しており、脳転移の報告は明らかに増加しています。転移性脳腫瘍に対する治療法の 1 つとして、低侵襲で高い治療効果が期待できる定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)に関する報告は数々見受けられますが、婦人科癌からの脳転移に限局してその治療効果について論じた報告は少なく、今回は当院で治療を行った患者さんの治療成績を後ろ向き観察研究として解析しその治療効果を検証します。具体的には過去のカルテからデータを収集し、治療後の転移性脳腫瘍の腫瘍制御率、生存期間、日常生活動作維持期間の解析および、それぞれに関する因子の解析を行います。

この研究を通じて婦人科癌脳転移に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)のさらなる治療効果の向上が期待され、その結果を医学界全体に発信出来る可能性があるものと考えます。

【研究方法】

この研究は当院で行った定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)の治療成績に関する後ろ向き観察研究ですので、患者さんの治療に影響を及ぼすことはありません。治療のデータおよび治療前後の臨床および画像所見の経過を臨床データとして使用します。これらの情報は個人が特定出来ないように匿名で行います。またその情報は当院で厳重に管理され外部に出されることはありません。

この研究で解析された結果は、学会などでの発表および論文に使用させていただく場合もあります。

この研究に関しましてさらに説明をご希望される方、またこの研究へのデータの利用を拒否される方は下記問い合わせまでご連絡下さい。

【連絡先】

本研究に関してご質問等がございましたら、下記の連絡先までご連絡下さい。

〒222-0036

神奈川県横浜市港北区小机町 3211

横浜労災病院 脳神経外科

周藤 高

松永 成生

電話番号:045-474-8111(代表)